

醫學博士理學博士野口英世君ノ「スピロヘータバリーダ」ノ

研究ニ對スル授賞審査要旨

千九百五年シヤウヂン氏ハ梅毒丘疹ニ「スピロヘータバリーダ」ヲ發見シ多數ノ學者之ヲ證明シテ恐ク梅毒ノ病原ナラント思考セシモ未ダ純粹ニ培養セラレズ從ツテ之ヲ應用シタル動物試驗ナキヲ以テ該「スピロヘータ」ガ果シテ梅毒ノ病原ナルヤ否ヤ確定セザリキ。シエレセウスキー氏及ビミユーレン氏ハ梅毒組織ヨリ「スピロヘータ」ヲ培養セリト報告シタルモ一ハ不純培養他ハ純培養ナリト雖モ共ニ惡臭アリテ病的作用ナキヲ以テ梅毒ニ關係アリヤ否ヤハ不明ナリキ。千九百十一年野口君ハ種々ノ培養法ヲ試ミタル後遂ニ一ノ特殊培養法ヲ案出シ之ニ依リ六回「スピロヘータバリーダ」ノ純培養ヲ家兔ノ睪丹梅毒腫ヨリ分離セリ而シテ最初其培養不純ナルトキハベルケフェルド氏濾過器ヲ使用シテ之ヲ分離セリ野口君ハ如斯シテ得タル純培養ヲ再ビ家兔ノ睪丸ニ接種セシニ定型の梅毒腫ヲ發生シタルヲ以テ甫メテ「スピロヘータバリーダ」ガ梅毒ノ病原タルコトヲ證明シ得タリ又其ノ純培養シタル「スピロヘータバリーダ」ノ形態及ビ培養狀態ニツキ詳細ニ之ヲ觀察シ此純培養ハ毫モ惡臭ヲ呈セズ免疫反應及ビ過敏性現象ニ於テモ亦梅毒組織ノ「バリーダ」ニ一致セルコトヲ確メタリ。

不潔ナル梅毒患者組織ニハ他ノ「スピロヘータ」アリテ「バリーダ」ノ純培養ヲ得ルコト困難ナル

ガ野口君ハ一種ノ固形培養基ヲ創製シ之ニ依リテ六回人體ヨリ「スピロヘータバリーダ」ノ純培養ヲ得之ヲ猿猴ノ皮膚ニ接種シタルニ梅毒性變化ヲ惹起セリ。野口君ハ液體培養基ニモ亦「スピロヘータバリーダ」ヲ培養スルノ一方法ヲ案出シ其培養ヲナセリ。

千九百十三年野口君ハ次ニ掲グル如ク進行性麻痺狂及ビ脊髄勞患者ノ神經中樞ニ於ケル「スピロヘータバリーダ」ノ存在ニツキ之ヲ研究證明セリ。進行性麻痺狂及ビ脊髄勞ハ以前ニ感染シタル梅毒ト關係アルコトハフルニエール、エルブガウス等諸氏ノ業績ニヨリテ明白ナルガ如シト雖モ是等ノ疾患ニハ神經中樞ニ梅毒性ノ組織變化ヲ缺キ或ハ驅梅毒法ヲ施スモ著シク影響セザルコトアルヲ以テ是等疾患ハ梅毒ト直接關係ヲ有スルニ非ラズシテ梅毒病原體ノ生産セル新陳代謝物タル毒素ノ作用ニ歸セザルベカラザルモノナリト看做スニ至レリ。

シヤウデン及ビホフマン兩氏ノ梅毒病原體タル「スピロヘータバリーダ」ノ大發見アリタル以來多數ノ有名ナル病理學者ハ屢々進行性麻痺狂及ビ脊髄勞患者ノ神經中樞ニ梅毒病原體ヲ探求シタルモ常ニ無效ニ終リタリ然ルニ此不結果ハ該中樞ニ梅毒病原體タル「スピロヘータバリーダ」ノ存在セザルコトヲ證明シタルニ非ラズ血液及ビ腦脊髄液ニ於ケルワツセルマン氏反應ノ陽性ナルコト及ビ「ザルワルサン」「ネオザルワルサン」ガ客觀的及ビ主觀的ニ良影響アルコトハ寧ロ該病原體ノ現存スルコトヲ示スモノナリトシ且ツ自ラ「スピロヘータバリーダ」ヲ純粹ニ培養シタル際其ノ屢々普通ノ形態ト異ナリテ顆粒狀ニ變化シタルコトヲ目撃シ又之ヲ他ノ培養基ニ移種シ發育セシムルトキハ

再ビ螺旋狀ニ復スルコトヲ經驗シ之ニ基キテ野口君ハ腦梅毒ニアリテモ亦「スピロヘータバリーダ」ガ神經中樞ニ顆粒狀トナリテ存在スルコトヲ發見セリ而シテ前掲多數ノ有名ナル病理學者ノ不成功ハ恐ク「スピロヘータバリーダ」ガ顆粒狀トナリテ存在セシコトニ因レルモノナラン乎。

野口君ハ腦髓ニ於ケル「スピロヘータバリーダ」分布ノ部位並ニ二三ノ色素ヲ以テシタル該「バリーダ」ノ染色法ヲ研究シ又自ら検査シタル標本ノ製法及ビ染色法ニツキ詳細ニ之ヲ發表セリ野口君ハ最初七十名ノ進行性麻痺狂患者ノ腦ニツキテ検査ヲナシタルニ十二名ノ腦ニ於テ定型的「スピロヘータ」ヲ發見セシガ總數二百名ノ同患者ノ腦ヲ検査シタル結果四十八回即チ二十四「プロセント」ノ陽性成績ヲ得タリ而シテ該患者ノ年齢ハ二十九歳乃至七十五歳ナリキ又野口君ガドクトル、ランベルト氏及ビロサノフ氏ニ分與シタル進行性麻痺狂患者ノ新鮮ナル腦ヲ暗視野裝置ニヨリテ検査タルニ之ニ於テモ亦「スピロヘータバリーダ」ノ存在ハ證明セラレタリ。

進行性麻痺狂患者ノ腦ヲ検査シタル結果ハ前掲ノ如クナルガ脊髓勞患者ニツキテハ十二名ノ脊髓ヲ検査シタルニ僅ニ一回ノ陽性成績ヲ得タルニ過ギズ然レドモ尙詳細ニ其検査ヲ遂グルトキハ更ニ多數ノ陽性成績ヲ得ルニ至ルベシト謂ヘリ而シテ是等疾患ノ病理ハ未ダ充分明瞭ニ解決シタルニアラズト雖モ野口君ハ主トシテ「スピロヘータバリーダ」ニヨリテ惹起セラレタル腦脊髓ノ病的變化ニ之ヲ歸セリ。

右ニ述ブル如ク野口君ハ甫メテ「スピロヘータバリーダ」ノ純培養ヲナシ其純培養ヲ動物ニ接種シ

定型的梅毒腫ヲ發生セシメテ「スピロヘータバリーダ」ガ梅毒ノ病原體タルコトヲ證明シタルコト並ニ多數ノ進行性麻痺狂患者ノ腦髓及ビ脊髓勞患者ノ脊髓ヲ集メ染色法ヲ行ヒ續テ其切片ヲ製シ精密ナル検査ヲ遂ゲ終ニ該組織中ニ諸學者ノ未ダ證明シ得ザリシ梅毒病原體「スピロヘータバリーダ」ノ存在ヲ發見シ以テ是等疾患ノ梅毒ニ因リテ發生スルノ學理ヲ闡明スルニ至リタルコトハ共ニ學術上ノ價値多大ナリト認ム。

上記研究ノ外野口君ニハ毒蛇ノ研究、梅毒ノ血清診斷其他多數ノ研究アリ又「スピロヘータバリーダ」ノ純培養法ヲ他ノ「スピロヘータ」ニ應用シテ口腔内「スピロヘータ」、粘液産出ノ「スピロヘータ」再歸熱「スピロヘータ」、「スピロヘータ」等ノ純培養ヲナシ以テ「スピロヘータ」類ニ關スル吾人ノ知識ヲ大ニ増進セシメタリ。